



令和6年4月1日

校長 決定

令和6年度東京都立あきる野学園学校経営計画

I 目指す学校

**児童・生徒が将来にわたって
主体的で豊かな地域生活を送
るための教育を行う学校**

- 児童・生徒一人一人を大切にする学校
- 可能性を伸ばす学校
- 専門性を発揮する学校
- 健康で安全に生活できる学校
- 家庭・地域社会から信頼される学校
- 教職員が主体的・意欲的に働く学校

基本姿勢

- ① かけがえのない児童・生徒の人権を尊重し、
敬意と愛情をもって全力で指導にあたる
- ② 児童・生徒の自己肯定感を育むべく
「ほめて育てる」を常に心がける
- ③ 暴力や暴言は職を否定するものであるから
これを行ってはならない



Ⅱ 中期的目標と方策

目標 1

児童・生徒の学びの充実

学校教育として、児童・生徒に「分かる喜び」を提供し、その成長に寄与する。

【方策】

- ① 学習指導要領が示す各教科や特別活動等の内容を「単元一覧」として示す。
- ② 学習集団の特徴を考慮した具体的な年間指導計画を作成して当年度の指導に当たる。
- ③ 単元ごとに観点を定めた評価を行い、本人、保護者と共有する。
- ④ 学習や生活の状態の観察等と標準的なアセスメントの両面から、児童・生徒の個性や特性を把握し、「なりたい自分」の実現に向けた具体的な個別指導計画を作成する。
- ⑤ より効果的な指導となるよう組織的なカリキュラム・マネジメントを実行する。
- ⑥ 健康な心と体を育み、体力の向上を果たし、文化・芸術を身近に感じさせる。
- ⑦ 社会や時代の変化から要請される教育課題に積極的に取り組む。
- ⑧ 教育課程や指導法の向上を目指し、組織としても個人としても研究と修養に努める。

目標 2

保護者とのパートナーシップの確立

多様化やグローバル化に対応し、「分かりあう」学校コミュニティを築く

【方策】

- ① 保護者には、分かりやすい説明、見やすい資料を提供する。
- ② 児童・生徒の学習や生活の状態を相互に伝えあい、本人の「なりたい自分」の姿を共有する。
- ③ 同学級、同学年や異年齢の児童・生徒の活動を紹介し、「子供の育ち」像を共有する。
- ④ 保護者の生活へ配慮しつつ、来校の機会やその他の連絡手段を活用する。

目標 3

地域に貢献し、地域の信頼を得るネットワークの構築

開校 30 年を目前に、一層地域への浸透を図り、共生社会への貢献を果たす。

【方策】

- ① 学校の機能や児童・生徒の活躍を紹介する広報活動を活発に行う。
- ② 個別の教育支援計画を作成し、本人、保護者が主体的に関係機関とつながるように支援する。
- ③ 地域の関係機関との日常的な連携から本人を中心とした支援会議を円滑に実施する。
- ④ 児童・生徒の活動を通して共生社会を目指す地域に貢献し、地域での活動を通して児童・生徒の学びを促進する往還的で双方向性のある協働関係を築く。
- ⑤ 特別支援教育のセンター的機能として、地域の学校教育や幼児教育に貢献する。

目標 4

教職員がいきいきと働き、誇りとやりがいのある職場へと成長

「教員の働き方改革」を超勤縮減に留めず、価値と魅力をアップデートする

- ① 根拠と結果の見える、作業の意味が分かる業務スタイルを築き、身に付ける。
- ② 想像力と創造力を発揮し、一人一人が担う役割を全うする。
- ③ 単元一覧を基にした授業や行事の実施を通して、予算の編成や執行を円滑なものとする。
- ④ 案件に対して所掌部署の視点で吟味し意見を述べる組織的な協議を定着させる。
- ⑤ 資料や教材を共有し、進行や取組の状況が分かるように整理する。
- ⑥ 職業コミュニケーションを発揮し、公私の別をつけてライフ・ワークのバランスをとる。
- ⑦ 過剰な資料作成や異なる所掌で同種の資料を蓄積しているようなものを廃し、一元的に業務に当たるシステムを開発する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

令和6年度テーマ 「分かって楽しい★あきる野学園」

「中期的目標と方策」で示した4つの目標を①「児童・生徒」②「保護者」③「地域」④「教職員」の4つの視点で具体化する。



1 豊かな学び＜児童・生徒の視点＞

- ① 「何を・いつ・どのように・どれくらい」指導するのかを教科の単元一覧と単元配列表で明らかにした＜新★あきる野プラン＞で、主体的な学びを促進
- ② 単元ごとの観点別評価を行い、学びの道程を記録
- ③ 単元指導計画の錬成に向け、各教員が「単元分かって楽しシート」を作成
- ④ カリキュラム・マネジメントの視点で各教科等を関連付け、体験に基づく効果的な指導を展開
- ⑤ 個別指導計画を作成し、個に応じた指導を充実
- ⑥ 自立活動指導計画を作成し、障害の特性に配慮した指導を充実
- ⑦ 児童・生徒の夢や願いを受け止め、成長の道程を示すキャリアパスポートを作成
- ⑧ 地域社会の在り方を知り、地域とかかわり、将来への夢を育む指導を展開
- ⑨ 東京グローバル人材育成指針に示す資質・能力を目指した指導の実施
- ⑩ TOKYO ACTIVE PLAN for students の考え方に立ち、心身の健康を増進し、スポーツや文化に親しみ、可能性に挑戦する姿勢の育成
- ⑪ 西多摩療育支援センター等の地域医療機関と連携して、健康な学校生活を推進
- ⑫ 食育を通して生命と環境のかかわりを感じ豊かに生きる姿勢を育成
- ⑬ 健康・安全に学ぶ環境を整え、体験的学習を通して災害から身を守る知識を習得
- ⑭ 体罰やいじめ、虐待等の防止
- ⑮ 増築棟の活用を進めるとともに、工事期間中の児童・生徒の安全を確保
- ⑯ 豊かな学びを実現し、促進するための効果的な ICT の活用と合わせ、社会に氾濫する情報の適切な活用を身に付ける教育を推進

2 パートナーシップ・共に考える教育<保護者の視点>

- ① 伝えたいことが分かりやすく整理された情報の発信
- ② 児童・生徒の様子が生き生きと伝わる情報の発信
- ③ 気軽に来校でき、いつでも立ち寄ることができる学校、教室づくり
- ④ 保護者の願いを受け止め、児童・生徒の成長に向けた対話を可能とする組織づくり
- ⑤ 保護者同士が子供の成長を喜び合い、分かち合うことができる情報交換の機会づくり

- ⑥ 地域につながる機会づくりや、地域とつながるための個別の教育支援計画（学校生活支援シート）の活用促進
- ⑦ 副籍交流を通し、地域と保護者の望ましい関係の構築を支援
- ⑧ パートナーシップを促進する効果的な ICT 機器の活用

3 地域に貢献、地域で学ぶ<地域の視点>

- ① 知りたいことが分かるように整理された情報の発信
- ② 学校の活動を的確に伝え、児童・生徒の魅力が伝わる情報の発信
- ③ 児童・生徒がかかわりをもつ地域機関や場の地図を作製
- ④ 地域向け学校見学機会、研修機会の拡充
- ⑤ 地域の農業・商業・工業やサービス産業と連携した学習機会の積極的活用

- ⑥ 地域のにぎわいづくりや共生社会づくりを目指す活動との積極的連携
- ⑦ 警察、消防等と連携した防災体制の推進
- ⑧ 地域の理解と協力を得ながら、増築等の工事を進行
- ⑨ 関係機関、地域とのネットワークを具体化する ICT 機器の活用

4 いきいき働く<教職員の視点>

- ① 職員が分かりやすく行動しやすい情報の整理と情報へのアクセス確保
- ② 組織の目標や役割と自身の業務や役割との関連を明らかにした目標設定
- ③ 整理された執務環境<物理空間・仮想空間>の維持向上
- ④ 教育活動にかかる経費を適切に管理、執行し、予算編成の精度を向上
- ⑤ 増築工事、既存校舎の空調工事の安全な実施と施設・設備の有効活用

- ⑥ 大事なことは何度でも、一度で済むことは一度で済ます判断力の養成
- ⑦ 複数の目・手が必要なことは複数で、一人で済むことは一人で済ます判断力の養成
- ⑧ 円滑な意思決定のための組織的な協議の定着
- ⑨ 校内他職種、外部専門家等の専門性を尊重、学び合い、協働する職業観の発揮
- ⑩ 退勤時間を意識することを習慣化、惰性での夜間在在を防止する定時消灯の励行

- ⑪ 自身のキャリアを展望し、ライフ・ワーク・バランスを意識してよりよく生きる態度を実践する教職員集団への成長
- ⑫ 校務の改善に資する ICT 機器の習熟と活用

重点目標と方策(数値目標)

「児童・生徒は楽しく学んでいるか」※1	90 ㊦
「教職員は人権を尊重しているか」※2	100 %
「教職員の暴力や暴言はあるか」	ゼロ
先行する教科に加え、他教科（特に★音楽 ★職業・家庭）も単元一覧を作成	10 月まで
指導部指定研究として、上記に加え知的障害高等部の教育課程類型化検討成果を報告	2 月まで
「単元分かって楽しシート」を作成 / 「楽しシート」に観点別評価を記載	100 件
カリマネPJ定例会で効果を確認し、PJ主導による単元指導計画を改訂	10 件
フォーマル/インフォーマルアセスメント、教科のチェックリストを活用 保護者アンケートで肯定的評価※3	85 ㊦
担任がキャリア教育の視点で保護者と共有 保護者アンケートで肯定的評価※4	85 ㊦
地域とのかかわりの好事例を学校HPで発信	12 件
英語検定をはじめとする諸検定の機会活用	実数追跡
「あきスポ」「ふたば祭」の実施の他、特体連、都肢体連、障スポ大会、 特文連、日肢協、地域文化活動に積極的参加	実数追跡
学校保健委員会/医ケア連絡会の活性化 保護者アンケートで肯定的評価 ※5	85 ㊦
食育実践授業の実施 全校への普及 校内参観者数	12 名
月例の避難訓練の実施 宿泊防災訓練の実施	10 回
教職員向け研修を実施 ふれあい月間年3回	ゼロ 体罰およびいじめ重大事案
増築棟での活動の様子を広報、アクセス通路の暫定開業から本格運用への 適切に案内	ゼロ 事故件数
「単元分かって楽しシート」にICT活用を記載する事例数	50 件
特色ある単元での積極的な参観呼びかけ	24 回
交流教育連絡会の活性化 副籍好事例の情報発信機会を設定	7 月まで
GIGA/一人1台端末の家庭利用促進	80 %
学校ホームページ更新件数	100 回
アクセスカウンター定点観測	3月29日昼 16633809
地域かかわりマップ カリマネPJ 企画調整会議で集約	10 回更新

学校公開参加者数（入学事前＋地域一般）	100 名
特別支援教育研修会来校者数	50 名
見学、実習、作業学習での活用、小学部、中学部での計画的な連携の開発	3 件新規連携
自治体、関係機関、都立学校等と連携、貢献する活動	2 件新規連携
学校危機管理計画の改訂	8 月まで
副校長、経営企画室長を核として工事進捗に応じた校内進行管理	ゼロ 事故件数
個別の支援計画のデジタル化の可能性の検討	10 学運協で 月 状況報告
校内ポータルへの再構築	8 月まで
安全点検日にクリーンデスクを実行 ＜職員室机／TAIMS 仮想端末＞	12 回
単元一覧を活用し、自律経営推進予算、 学校徴集金（私費会計）に反映	12 月まで
新厨房での安全な調理、配食の開始、アクセス通路と空調工事の円滑な運用	12 月まで
技を紹介しあう校内ツールの作成	6 月 まで
2 ヶ月連続で超勤 45 時間を超える者 終業後夜間電話切り替え、日没後完全消灯	ゼロ 18 時
自身のキャリアを展望し、ライフ・ワーク・バランスを意識してよりよく 生きる態度を実践する教職員 教員アンケート 肯定的評価	80 ㊦
教員の動画プレゼンテーション技術の獲得	95 %

- ※1 保護者アンケート：「児童生徒が楽しく学校に通っていると思うか」の項目における良い評価が 90 ㊦以上
- ※2 保護者アンケート：「教職員は人権を尊重した指導を行っているか」の項目における良い評価が 100%
- ※3 保護者アンケート：「教職員と外部専門員との連携のもと適切な指導が行われているか」「個別指導計画は分かりやすく適切な内容か」の項目における良い評価が 85 ㊦以上
- ※4 保護者アンケート：「キャリア教育の推進への取組は十分に行われているか」の項目における良い評価が 8 ㊦以上
- ※5 保護者アンケート：項目変更「感染症に対する取組は適切なされているか」の項目における良い評価が 85 ㊦以上

